



良い労働条件が生き甲斐を生む

アルバイト従業員が調理場でスポンを脱いで股間をお盆で隠す動画。商品のプリンを口に含んで「汚い」と調理場で騒ぐ動画。こういう行為を「バイトテロ」と云うそうだ。

大戸屋は三月十二日に全店一斉休業。どうやらマニュアルに従って「あれをしてはいけない。これをしてはいけない」と云う研修をして、スマホの持ち込みは禁止と言いつつ面白い。

スマホ禁止と云うが

スマホが無ければお店の評判を貶めるような動画をアルバイトが投稿することは出来ない。しかし、これが「対策」？スマホが無ければ別の手段を考えるだろう。来店した友達にスマホを借りることもあり得る。

自分の店なら

もし、自分の店だったら、お店は大事。絶対にそんなことはしない。ところが、すぎ家、くら寿司、ビッグエコー・・・と次々と同様の問題が生じている。

何故か？非正規雇用だから賃金は安く、何時でも首を切られる。労働者としては「一生懸命働いても、景気が悪いと直ぐ解雇」になるので、会社を大事に思う気持ちが無くなるのは当然だ。

今大戸屋等の経営陣に求められているのは、労働条件を改善し、解雇の不安がなく、働き甲斐を持てる労働者を増やすことではないか？

コスト削減に血道を上げることにより、逆に今回のようなマイナスが増えるのだ。

あなたはどう思われますか？

安曇野ちひろ美術館から

長野県北安曇郡松川村西原
二〇一九年三月



三月の雨の日、安曇野ちひろ美術館を訪れた。「ねこの画家」安曇展が開かれていた。

安曇は一九三一年に新ニッポン童画会を設立した日本の童画界の草分け。戦後も真っ先に童画の再興に取り組んだ。

大佛次郎作、安曇画の「すいっちょ猫」という絵本がある。子猫があくびをした時にスイッチョが口に飛び込んでしまい、おなかの中で「スイッチョ、スイッチョ」と鳴く話だ。子供が幼い頃「読んで、読んで」と何度もせがまれ、内容をそらんじてしまう位であった。

カフェで休憩すると、冬だから、美術館の庭の芝生も生け垣も黄色や茶色。

遠くに八ヶ岳、蓼科から戸隠に連なる山脈がある筈だが、霧に遮られていた。